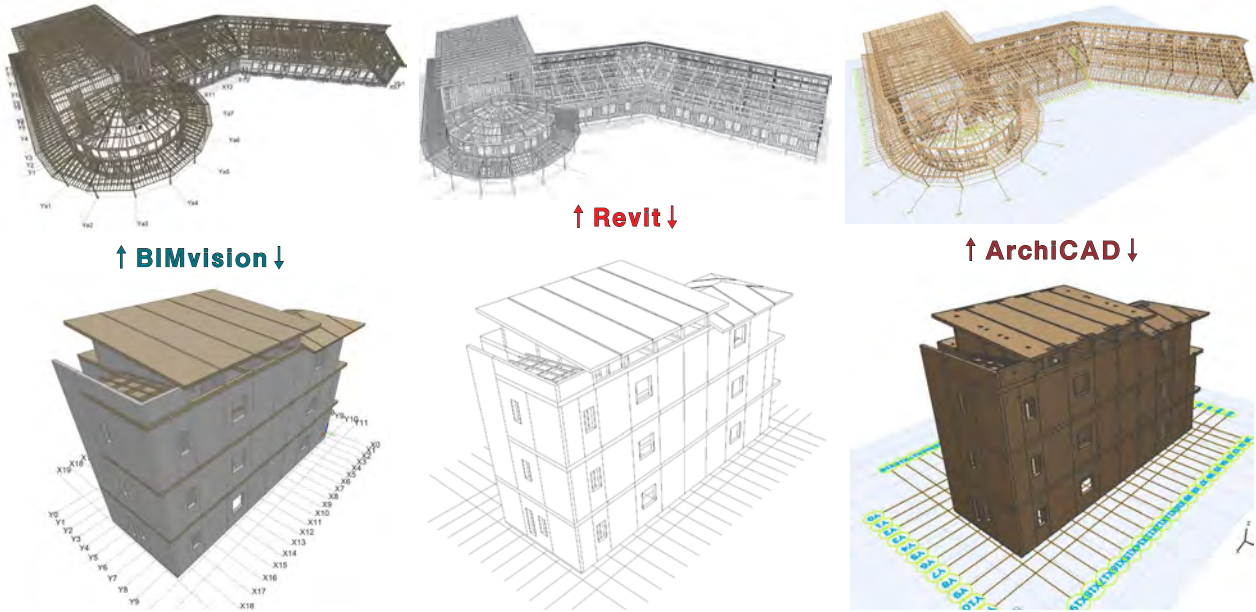


「IFCデータ出力システム」を新たに開発

ネットイーグル(株)



XF15から出力したIFCデータを3つのBIM-CAD (BIMvision、Revit、ArchiCAD)に取り込んだサンプル

今、国では建設業界における技能労働者不足への対応や働き方改革による週休2日の実現に向け、官民一体となってDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に取り組んでいる。その道標でもある、国土交通省が示すBIMのロードマップによると、2023年度には小規模を除くすべての公共事業におけるBIM (Building Information Modeling) /CIM (Construction Information Modeling) の原則適用、2025年度にはBIMから出力されたデータを用いた確認申請の試行、2027年にはBIMによる確認申請の全国展開を計画しており、将来的にはBIMデータを活用した審査を拡大することとしている。

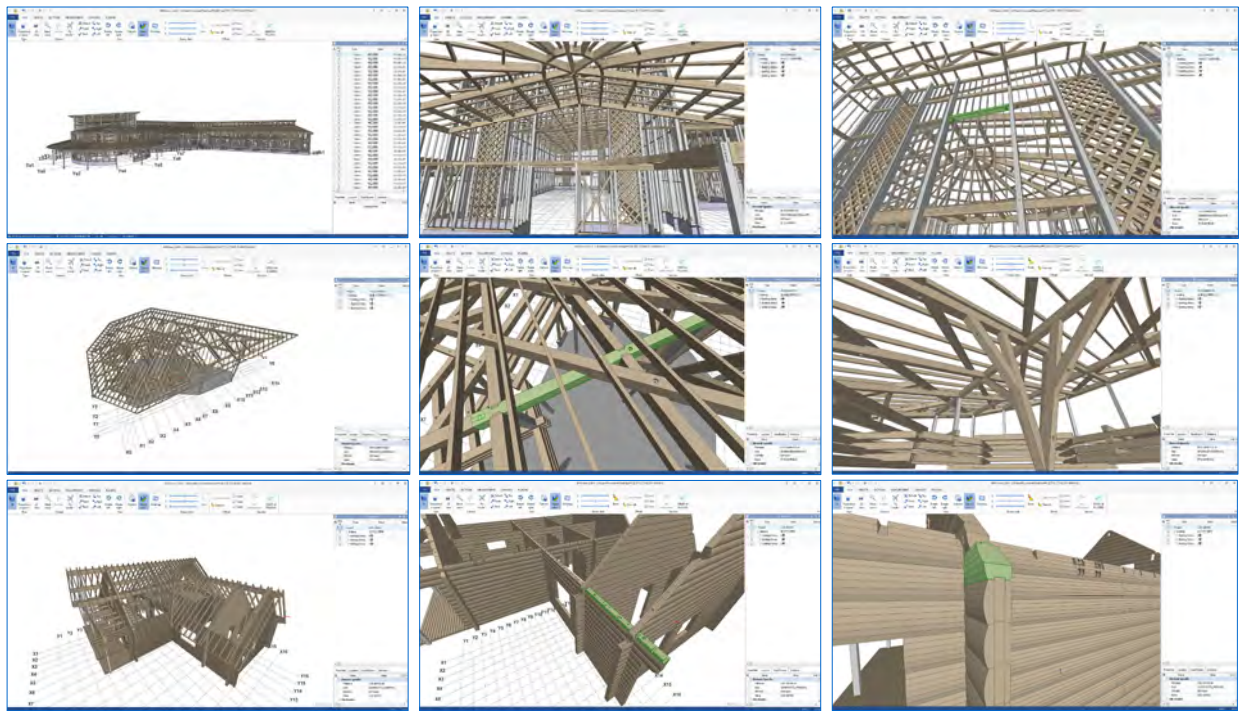
こうした状況を踏まえ、木造プレカットCAD/CAMシステム大手のネットイーグル(株) (福岡県福岡市、祖父江久好社長) では、同社の非住宅木造プレカットCAD「XF15」のオプションとして、BIMの標準フォーマットであるIFCデータを直接出力できる「IFCデー

タ出力システム」を新たに開発。この7月から販売を開始した。

IFCデータによる相互連携

同社では、前述の国土交通省が推進するBIM普及に向けた取組みを受け、今後は「IFCデータを読み込 / 出力する機能」がプレカットCADの必須機能になるとの考えから、ソフト開発を通じて対応を進めてきた。

同社では、2022年5月にオートデスク社の「Revit (レビット)」に、同社CADソフトから出力された中間ファイルデータを読み込む「Revitインターフェイス」をリリース、翌年3月には、Revit (レビット) や ArchiCAD (アーキCAD)、VectorWorks (ベクターワークス) といったBIM-CADで作成されたIFCデータを同社CADソフトで読み込むための「IFCデータ読み込みシステム」をリリース。この7月に「IFCデータ出力システム (XF15



IFCデータ出力システム サンプル（加工あり）

版)」がリリースされたことにより、プレカットCAD(XF15)とBIM-CADの双方向でデータの読込 / 出力が可能となった。

「IFCデータ出力システム(XF15版)」では、① BIMvision（ビムビジョン）、② Revit（レビット）、③ ArchiCAD（アーキCAD）、④ VectorWorks（ベクターワークス）、⑤ Tekla Structures（テクラストラクチュア）、⑥ AutoCAD 3D（オートCAD）など、IFCに対応したBIM-CADであれば、中間ファイル形式を介することなく、XF15で作成されたIFCデータを問題なく取り込むことができる。

IFCデータを出力する際には、XF15の操作画面に表示されるメニューから「IFC出力」を押下し、出力要素の「構造」、「合板」、「加工」、「基礎」、「端柄材」、「CLT」、「金物」、「グリッド」の中から任意選択してコマンド実行することにより、BIM-CADに取り込みたいデータを選んで出力することができる。XF15で入力された情報が齟齬なく反映されるため、仕口や継手、金物、ボルトの形状・サイズなどを忠実にBIM-CADへ渡せるのが最大の特長となっている。

プレカットCAD (XF15) と BIM-CAD の双方向でデータの読込 / 出力が可能となったことで、アクロバティックな設計がなされた難易度が高い非住宅物件であっても、ゼネコンや設計事務所がBIM-CADで作成したデータがあればXF15で直接読込むことができ、プレカットの入力作業を大幅に効率化できる。逆に、XF15で入力したデータであっても、IFCデータへ忠実に出力できるため、BIM-CADの三次元データで納まりや干渉をチェックすることができ、ゼネコンや設計事務所でも二次利用の際の利便性を高めることができる。

同社では、今回のXF15版のリリースを皮切りに、XF24版とXstar版のリリースを今年10月に計画しており、年内には同社の全CADソフトでIFCデータの読込 / 出力が可能になる予定となっている。さらに、これと並行してプレカットデータをBIMデータに変換する有償サービスも同時にスタートさせる。またその一方で、確認申請におけるBIM使用時のルールやデータ連携の運用方法など、国や業界が進めていくであろう環境整備にも順次対応していく方針。